獣医師生涯研修事業のページ

このページは，Q & A形式による学習コーナーで，小動物編，産業動物編，公衆衛生編のうち1編を毎月掲載しています．なお，本ページの企画に関するご意見やご希望等がありましたら，本会「獣医師生涯研修事業運営委員会」事務局（TEL : 03-3475-1601）までご連絡ください．

Q & A　産業動物編

症例：牛，黒毛和種，雄，12日齢
臨床所見：腹部膨満，排尿は確認できず（図）．

質問1：疑われる疾患のリストは何でしょうか．

質問2：どのように診断を進めたら良いでしょうか．

質問3：本疾患に対してどのような治療処置が考えられますか．

図　外貌

（解答と解説は本誌35頁参照）

解　答　と　解　説

質問1に対する解答と解説：

膀胱破裂.

生後間もない子牛が膀胱破裂になるとはなかなか思えません．低蛋白血症や先天性心疾患などによる腹水貯留も考えられますが，排尿が確認できなければ膀胱破裂を疑う必要があります.

質問2に対する解答と解説：

まず，腹部の触診と打診あるいは超音波検査により，腹腔内に液体が貯留していることを確認します．次に，腹腔穿刺により腹腔内に貯留している液体を採取し，液体の色調，臭いなどから尿であるか否かを判断します．また，血液生化学検査として血中尿素窒素（BUN），血清クレアチニン（CRE），血清カリウム（K）濃度などの測定結果は，病状を把握するとともに予後判定のために必要な情報となります．経過が長ければ腎不全で予後不良になることもあります．本症例の場合，BUNが110mg/dl，CREが8.1mg/dl，Kが7.6mEq/lで，すでに腎不全になっていました.

質問3に対する解答と解説：

まず，腹腔穿刺により，腹腔内に貯留した尿をできる限り除去し，多量の尿貯留による胸腹部への圧迫を解除します．次に，開腹して膀胱の破裂部位を確認します．破裂部位から尿道カテーテルを膀胱内に挿入し，膀胱から尿道へ下行性にカテーテルを進めていきます．結石による閉塞があれば，結石停留部位を確認後，停留部位の尿道を切開し，結石を除去します．その後，尿道の切開部位及び膀胱の破裂部位を縫合し，カテーテルは留置したまま閉腹します．結石停留部位の位置によっては，尿道造瘻術を実施します．カテーテルは，排尿良好であれば1週間程度で抜去します．本症例の場合，膀胱の頭側背部に1.5cm程度の裂孔が確認されましたが，尿道閉塞はありませんでした．本疾患の原因として，母牛による蹴りなどの外的要因の可能性が考えられました.

キーワード：膀胱破裂，腹部膨満，排尿障害，尿道閉塞

※次号は，小動物編の予定です